

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 飛驒古城特別支援学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和7年11月20日(木) 10:00～12:00
- 3 開催場所 飛驒古城特別支援学校 図書室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者

会 長	田中さおり	PTA会長
副会長	中口 守	地域代表(青龍会会長)
委 員	山下 拓也	地域代表(殿町22区区長)
	青木 陽子	地域生活安心支援センター長
	奈木 桂子	福祉事業所理事長
	蓑輪 一幸	卒業生保護者代表
	上口 淳	古川小学校長
	山腰 邦彦	古城福祉会事務局長
学 校 側	長瀬 朋彦	校長
	道下亜紀子	教頭
	和仁 崇幸	事務長
	島ノ上麻美	小・中学部主事
	小澤 耕	高等部主事
	中田 健太	教務主任

5 会議の概要(協議事項)

(1) 今年度の取組「つながる!飛驒古城」について

- 意見1:本校は他校と比較しても行事が充実しており、いろいろな体験ができています。PTA行事に関しても教職員の協力が大きくありがたい。
- 意見2:初任者の学びの機会として、特別支援学校と小学校の互いの授業を参観し合えるとよい。また、就学支援に関して、地区の教育支援委員会でアドバイザーとして本校教員から助言を得ていることもありがたい。
- 意見3:児童生徒との活動を通して、笑顔を見られるのがとても嬉しく、学ぶことも多い。今後も継続して関わっていききたい。高等部の作業製品販売会で購入したお皿は地域のイベントの際に使用している。地域のイベントにも児童生徒が気軽に参加してもらえるようになるとよい。
- 意見4:生きづらさを感じて市に相談される方が多い。特別支援学校の卒業生の中にも現在困っている方がおり、「学生時代は楽しかった」と振り返っている。相談される方は不器用な方が多く、なおかつ、理想を追い過ぎてしまうタイプだと苦しみが大きくなるため、学校ではメタ認知教育などにも取り組んでほしい。

意見 5 : 小学校や中学校、高等学校とのつながりは、同年代の子どもたち同士がかかわるとしても重要な機会であるため、積極的にすすめてほしい。

意見 6 : 卒業後の生活のイメージをもてるように、事業所等に親子で見学したり、体験したりする機会をつくるのはどうか。

意見 7 : 我が子は本校卒業後もできることが増え、成長を続けている。親亡き後のことも考え、学校を卒業しても困らず生活できる子どもたちを育ててほしい。「鍛える」と「痛める」は紙一重のもので、その境目を見極めるのは難しいが、負荷をかけることが子どもを成長させるために必要なときもある。今後も必要な負荷をかけながら教育活動を行ってほしい。

意見 8 : 同窓会が現在帰路に立っており、来年からは総会を行わない形にした。ただ、卒業生は夏祭りを楽しみにしているため、そのつながりは大切にしてほしい。

(2) 学校評価アンケートの結果について

意見 1 : 生徒のアンケートで 100%肯定的な回答となるのはかえっておかしいため、この現状の結果でよいのではないかな。

意見 2 : 「わからない」の回答には、不安の要素もあるのではないかな。保護者の思いを丁寧に懇談等で聞き取りや説明ができるとよい。

(3) その他

- ・第 3 回学校運営協議会は 1 月 28 日を予定。

6 会議のまとめ

- ・第 2 回学校運営協議会では、学校評価アンケートの結果や今年度の取組についての実践報告を行った。
- ・意見交換会で出された内容については、今後、学校で実践できることを検討し、行っていく。また、実践した結果を第 3 回の学校運営協議会で報告する。